

第15次中期経営計画概要 2024年3月期～2026年3月期

第15次中期経営計画では、課題である収益性のいち早い回復はもとより、2030年ビジョン達成に向けたさらなる成長を果たすべく「成長戦略」「地域戦略」「機能戦略」からなる9つの重点戦略に取り組んでいきます。また、第13次中期から取り組んできたESG経営の集大成とすべく持続可能な社会へ貢献し、全てのステークホルダーの皆さまから存在を期待され「喜ばれる企業」となることを目指します。

経営方針 ESG経営の実現	
重点戦略	取り組み
成長戦略	キャビンコーディネイト機能の獲得 <ul style="list-style-type: none"> ● 魅力あるキャビン商品・技術の創出 他分野企業との積極的な共創活動 次世代自動車を想定した車室内での過ごし方の研究 ● システム・ソフトウェア開発力強化 シート統合ECUなど電子制御デバイス部品の開発 高度エンジニアの育成
	新事業のさらなる拡大 <ul style="list-style-type: none"> ● ターゲット商権の戦略的受注展開 既存受注機種を活かした派生機種商権の獲得 次世代技術の先行提案による将来機種の先行開発受注 ● 新規客先の開拓 新事業統括本部を中心とした各地域・機能本部の連携強化
	主要客先シェア向上 <ul style="list-style-type: none"> ● 地域連鎖によるシート商権受注 シート商権未受注地域での商権獲得 新たなパートナーシップ構築とそれを活かした営業活動展開 ● 部品商権受注の拡大 次世代共通シートフレームの確実な受注 軽自動車用シートフレーム受注に向けた開発強化 部品競争力強化による受注拡大
地域戦略	北米収益体質のV字回復 <ul style="list-style-type: none"> ● 生産変動に順応できる企業体質への変革 変則生産・コスト増に負けない徹底した生産の自動化 仕様・材料・工程系列の最適化によるコスト競争力強化
	中国事業戦略の再構築 <ul style="list-style-type: none"> ● 既存ビジネスにとらわれない新たな取り組み 新規顧客獲得を見据えた新たなパートナーシップ構築 原価低減・調達リスク低減に向けたローカルメーカー採用拡大
	欧州新事業の戦略的拡大 <ul style="list-style-type: none"> ● 欧州自動車メーカーとのさらなるビジネス拡大 ポーランドをキーステーションとした営業展開 部品採用拡大に向けたトリムカバー生産会社の新設
機能戦略	サプライチェーンの再構築 <ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能なサプライチェーンの構築 リスクの可視化と現地調達推進による安定性と収益性の両立 お取引先と連携したサプライチェーンCO₂排出量(Scope3)削減
	環境技術開発の推進強化 <ul style="list-style-type: none"> ● 早期製品化に向けた環境技術の進化 バイオマス材・環境適用鋼材の製品適用に向けた技術確立 リサイクルを想定した素材選択や構造設計による資源循環
	高効率生産体制の構築 <ul style="list-style-type: none"> ● 競合他社を凌駕する生産体質の実現 DX・AI導入や自動化による生産ラインの持続的進化 システム見直しなど生産管理効率改善
基盤	人事戦略 / 財務戦略 ▶ P.18-21 / 品質No.1評価の獲得 / サステナビリティの浸透・定着

財務目標	第14次中期 実績	第15次中期 目標	2030年 目標
売上収益(億円)	4,092	4,800	7,000
営業利益(億円)	152	440	680
営業利益率	3.7%	9.2%	9.7%
ROE	1.8%	8.5%	10.0%

株主還元	
基本方針	業績に左右されない、継続的かつ安定的な還元の実施
配当	第15次中期末 DOE 3.5%以上に向け安定増配
自己株式取得	第15次中期累計200億円規模の機動的な自己株式取得と適切な消却

マテリアリティKPI ▶ P.12-13		第14次中期 実績	第15次中期 目標	2030年 目標
社会	研究開発費に占める革新技術開発費比率	2021年3月期比 +2.6%	2021年3月期比 +3%	2021年3月期比 +10%
	シートサプライヤーIQS評点	8.8P	7.0P	2.0P(高位安定)
環境	CO ₂ 排出量削減率	2020年3月期比 △16%	2020年3月期比 △25%	2020年3月期比 △50%
	廃棄物削減率	2020年3月期比 △16%(全量)	2020年3月期比 △25%	2020年3月期比 △50%
	取水量削減率と排水による環境影響	2020年3月期比 △13%(全量)	2020年3月期比 △15%	2020年3月期比 △50% 環境影響“0”
	ティ・エス テック基金 (マッチングギフト制度) 創設	制度調査構想検討	寄付制度の創設	寄付制度の創設
企業基盤	エンゲージメントレーティング	C	BB	AAA
	サプライヤーサステナビリティガイドライン 遵守率	97% (国内取引先126社)	100% (国内外取引先)	100% (国内外取引先)
	多様な人材の管理職比率	32.5%	33.3%	35%
	コーポレートガバナンス・コード遵守率	100%	100%	100%

キャビンコーディネイト機能の獲得

技術革新をもたらす自動車の変化は、車室内空間(キャビン)で求められる価値を一変させます。これをビジネスチャンスとし、さらなる事業成長を遂げるためには、シートのみならずキャビン全体をコーディネートし、お客さまやユーザーに対して新たな価値を提案していくことが不可欠です。これまで蓄積してきた独自技術と他分野企業との連携によって、魅力あるキャビンを実現できる商品・技術の創出に取り組めます。

次世代自動車を見据えた商品抜粋

【車室内空間商品】 ● サウンド&振動 HMIシート ● ドアHMI ステルススイッチ ● ロングスライドレール ● 薄型 回転機構部品 ● Health Care Seat ● 生体センシング	【EV向け省エネ商品】 ● 速暖空調シート ● 廉価空調シート 【環境配慮商品】 ● Sustainable Seat など
--	--

独自開発技術×他分野企業との共創活動
魅力あるキャビン商品・技術の創出

さらなる事業成長に向けて

当グループは、本田技研工業株式会社および同社の関係会社からなるホンダグループのグローバルパートナーとして、これまで着実な事業成長を遂げてきました。より一層の成長を遂げるため「主要客先(ホンダグループ)シェア向上」のみならず、新たなお客さまの獲得やホンダグループ以外の商権拡大といった「新事業のさらなる拡大」をもって2030年ビジョン達成を目指します。

- 2030年目標**
- ホンダグループ向け四輪車用シートシェア70%以上
 - 連結売上収益に占める新事業売上3割以上

